

スポーツYAMATO

堀
劇
的
サ
ヨ
ナ
ラ
弾

2
位
通
過
に
望
み
つ
な
ぐ



前日のYKKに敗戦し、もう後がなくなつたが、選手全員が決してあきらめてはいなかった。とにかくVONDSとの一戦に勝つて望みをつなぐ強い意志を感じた。先発投手は自ら志願した大串がマウンドに上がった。『プレッシャーがかかる大事な一戦、後輩に責任を負わせる訳にはいかな』と『エースの言葉に杉野監督も大串に託した。大串は1回、2回とツイアウトを取つた後に長打を浴びたが、後続を打ち取り、我慢の投球を続けた。しかし、4回表に相手の3番、4番を連続三振に打ち取つた後、走り出してきたストレートを狙われ右中間に本塁打を浴び、1点を失つた。しかし、4回裏、すぐさま反撃に出る。新海がヒットで出塁し、すかさず2塁への盗塁を決めると、4番車がレフト前タイムリーを放ち同点に追いついた。5回表大串は2アウトを取つたが内野安打を許したが後続を打ち取り、5回1失点、4奪三振でマウンドを降りた。6回表にマウンドに上がったのは斉藤。斉藤は前日好投していたものの6回に逆転を許した責任を感じていた。『私のピッチングが流れを変えてしまった』と肩を落としていたが、『今日は自分が出て

流れを変えるピッチングをする』と言つていた通り、6回は2者連続三振、7回は1アウト後ヒットを許したものの、ピッチャーゴロとピッチャーフライに打ち取り、古巣を完全に抑え、一気に流れを変える素晴らしいピッチングを披露した。

前日は号泣

7回裏の先頭打者は6番堀に打席が回つてきた。堀は前日の敗戦の責任を自らのミスリードとチャンスで凡退した悔しさで1人部屋で号泣していたと言ふ。この打席もまずは塁に出る事が大事とセーフティバントも考えたが、自分らしく思い切りよく振つてくると決め、打席に入った。ストライクは思い切つて振り、自分のスイングをし、タイムニングがあつてきた。フルカウントからの6球目を打つた打球は打つた瞬間に入ると分かるレフトへのサヨナラホームランとなり2位VONDSに2-1で勝利し、2位通過に僅かな望みをつないだ。これで10月18日に行われる予備節でMORIがVONDSに勝利すると、2位になり、決勝リーグに進める可能性が出てきた。やるだけの事はやつた。後は天に祈りながら待つことになりしやう。